

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492200272	事業の開始年月日	平成21 10月 1日
		指定年月日	平成21 10月 1日
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター藤沢		
所在地	(〒251-0003) 神奈川県藤沢市柄沢2-6-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年12月8日	評価結果 市町村受理日	令和3年5月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、静かな住宅地の中にあります。高台に建っている為、日当たりが良く風通しも良いです。ご利用者様の誕生日を出来る限りにフロア全員でお祝いしています。隣がレストランなので、バースデーケーキ作成を依頼しておやつにお出しし、皆さんと一緒に召し上がっていただいています。ケーキの味やトッピングも、ご本人の希望をなるべく取り入れて注文し、お店に対応いただいています。グループホームなので、家事(洗濯物干し・たたみ・食事盛り付け・食器拭き等)や、古新聞まとめ等軽作業・その他日常的な活動を、利用者様個々の心身状態や意向を踏まえ可能範囲で実施していただけるよう支援しています。事業所理念である「みんなの笑顔の為に」をモットーに、毎日利用者様と職員の笑顔と笑い声が絶えないホームです。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年12月25日	評価機関 評価決定日	令和3年4月12日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】 この事業所は、JR東海道線、小田急江ノ島線、江ノ島電鉄の藤沢駅からバスで5分程の車通りの少ない、高台の静かな住宅地に立地している。鉄骨造りの2階建ての建物で、陽当たりが良く居間には畳敷のコーナーがある。周囲に、レストランや日帰り入浴施設、神社、公園、保育園、ハンバーガーショップ、スーパーマーケット、ドラッグストアなどが点在している。 【思いや意向を把握した支援】 アセスメントや日々の関わりの中で「庭木の手入れが好き」、「皆と唄うと楽しい」など、利用者の様々な希望や好みを把握している。老人会や教会などの馴染みの場所への外出や新聞を読む、苔玉に水やりをする等、入居前からの生活習慣を支援している。傾聴、囲碁、将棋、音楽など、ボランティアを拡充して利用者の活気ある日々の生活につなげている。 【身体拘束をしないケア】 部外者侵入のリスク回避のため、日中玄関は施錠し、ユニットの扉は開錠している。現在、不意の外出のそぶりがみられる利用者はいない。利用者の特徴を把握して「ここに泊まっていることをお子さんは知っていますよ」など、利用者が安心する言葉がけをしている。毎月開催する「身体拘束廃止委員会」や「身体拘束研修」を通して、身体拘束をしないケアの確認をしている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター藤沢
ユニット名	富士の里

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を各フロアの見える場所に一文字ずつ大きく掲示している。各職員が周知しており、笑顔のたえない様に努めている。	「みんなの笑顔の為に」という事業所の理念は、フロアの見やすい場所での掲示や入職時の研修で共有している。管理者は、職員が冗談を言って利用者を笑わせている姿や利用者の活気ある日常の様子から、理念が実践につながっていると認識している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は新型コロナウイルス感染拡大防止の為に、休止中であるが、町内の老人会・教会に毎週行かれています。又、近隣の保育園と交流をもたせてもらい、園児と先生がホームに遊びに来て頂いている。	柄沢町内会に加入し回覧板を介して情報収集している。新型コロナ禍以前は、防災訓練やお祭り、町内清掃、老人会などに参加している。近隣の保育園との交流や傾聴、囲碁、将棋、音楽、ハーモニカやサクソ演奏などのボランティアの受け入れも新型コロナ感染防止のため中断している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	問合せやご見学には随時対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見サービスを向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議にて現在のホームの状況や意見交換をしてサービスの質の向上に努めている。	運営推進会議は、偶数月に開催している。家族、事業所のオーナー、民生委員、地域包括支援センターの職員、市の職員、事業所の職員がメンバーとなっている。新型コロナ感染防止の為、今年度は書面開催となっている。レクリエーションを充実させるためにボランティアの活用を推奨する意見を受けて、傾聴や将棋など様々なボランティアを受け入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	村岡地区福祉関係者ネットワーク部会に加入している。	市の介護福祉課の担当職員とは、運営推進会議の報告書や外部評価結果を持参するなどして、顔の見える関係を保つようにしている。グループホーム連絡会に参加した際に、市の職員と交流している。新型コロナ禍以前は、市主催のノロウイルスなどの感染症の研修に毎年参加していた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。毎月、管理者・身体拘束廃止委員会を中心に身体拘束廃止にむけた研修を行っている。	実地指導の際に確認し、部外者侵入のリスク回避のため、日中、玄関は施錠しユニットの扉は開錠している。現在不意の外出のそぶりがみられる利用者はいない。利用者の特徴を把握して「ここに泊まっていることをお子さんは知っていますよ」など、利用者が安心する言葉がけをしている。毎月開催の「身体拘束廃止委員会」や「身体拘束研修」を通して身体拘束をしないケアの確認をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃からご利用者様へ対する支援や様子・状態の報告を受けている。年に2回、高齢者虐待防止法について研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議にて権利擁護の研修を行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様・ご利用者様に十分な説明をし、分かりにくい所は補足している。 質問があれば、その都度に説明をし理解・納得を頂いてから契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来訪時や電話連絡時に意見交換をしている。ご利用者様の意向は常日頃の業務の中から要望や意見を聞いている。玄関に意見箱も設置している。	新型コロナ禍において家族の面会はオンラインや、事前に健康チェックなどを実施したうえでの予約制にしている。事業所内の様子を写真に撮るなどした「近況報告」を新たに作成して、月々の請求書などを郵送する際に、同封して家族に利用者の様子を伝えている。家族の意見は来訪時の会話や電話連絡、法人が実施する顧客満足度調査、家族が参加する夏祭りやクリスマス会の行事等で把握し、「レクリエーションで体を動かさず企画をして欲しい」などの要望を反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議やユニット会議にて職員からの意見や提案を聞き運営の向上に努めている。個別でも相談や意見がある時には、その都度に聞き反映させている。	月1回、全員参加のホーム会議やユニット会議を開催して職員の意見や提案を吸い上げ、利用者のケアなどに反映している。管理者は日常的に職員の話聞いています。行事や利用者の消耗品購入などについて意見があり、対応を検討し運営に反映している。個人面談は、入社後1ヶ月、6ヶ月後などに数回行っている。それ以外は、個人面談として設けていないが、必要時には管理者が個別に対応して相談などに応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度にてスキルがアップしている職員には給与アップを行っている。希望に見合った勤務体制に努めている。必要時には個別にて面談を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のホーム会議にて職員研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社の毎月の会議にて他サービスの職員と意見交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前相談時にご家族様・ご本人様等の声に耳を傾けている。安心して生活出来る様に随時声をかけ、コミュニケーションを図り信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の来訪時や電話連絡時に困っている事や意向や要望・相談等を受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様・ご利用者様から話を聞き必要なサービスなのかを確認して対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居前のもともとの生活を大事にし、近づける様に共有部分を摂り、出来ない部分を支援してお互いの信頼関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の来訪時には生活の様子をお伝えし、相談をうけて職員との関係を築いている。電話時にも意見交換をし関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームでの夏祭りやクリスマス会といった行事にはご家族様を招待している。 面会や電話・お手紙にて関係が途絶えない様に努めている。	家族と馴染みの美容室を利用する方や墓参りに出かける方がいる。元々外出を希望されない利用者が多く、外出の機会が少ないことに加え、新型コロナ感染防止のため、老人会や教会などの馴染みの場所への外出も中断している。入居前からの生活習慣で、新聞を読んだり、苔玉の水やりをしたり、趣味の囲碁や将棋を継続して楽しむ方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の相性を日頃の様子から観察し把握に努め、ご利用者様同士が気兼ねなく会話が出来る様な席に心掛けています。お互いが支え合える様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	来訪や電話にて相談や聞きたい事があれば、その都度必要な支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族様には来訪時や電話連絡時に希望や意向を聞き、ご利用者様には日頃の会話の中や様子から汲み取り、ユニット会議にて反映している。	アセスメントのほか、日々のゆっくりと過ごしている時間帯などに関わりを持ち、「庭木の手入れが好き」、「皆と唄うと楽しい」など、利用者の様々な希望や好みを把握している。意向の把握が困難な場合は、利用者の行動や表情、仕草を確認しながら汲み取り、その情報は、ユニット会議などで検討し共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご利用者様の会話から今までの生活について聞き出している。ご利用者様の望まれている暮らしが出来る様に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に生活状況や体調等を記録し把握に努めている。必要な事は連絡ノートに記入し職員同士で共有している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様には来訪時や電話連絡時等に事前に意向を聞き入れ、職員には事前カンファレンスシートを提出してもらい、サービス担当者会議にて意見交換をし、介護計画書に反映させている。	問題点などを「事前カンファレンスシート」に記録し、利用者の状況を把握した上で、サービス担当者会議で意見交換して、計画作成につなげている。利用開始時から1ヵ月間、その後は3ヵ月間、6ヵ月間でプランを見直し、状態の安定している利用者は、通常、短期目標6ヵ月、長期目標1年の介護計画を作成している。目標更新時にモニタリングを行うことを基本とし状態の変化がある時はプランを見直している。介護記録の初めのページに介護計画のコピーを入れ、参照して計画に沿ったサービスが提供できているかを確認している。「皆さんと仲良く穏やかに過ごしてほしい」などの家族の意向や医師等からの情報も反映し、介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士の申し送りや会議記録を読み、現状の課題や気になる点や様子について相談・提案をし管理日誌や連絡ノートに記入し情報共有に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度生まれるニーズに対応できる様に、最良なサービスができる様に柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は新型コロナウイルス感染拡大防止の為に、休止中であるが、老人会や教会の行事に希望があれば出来る限り参加して頂いている。出来る限り、ボランティアグループの定期的な来所依頼をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は該当事例はないが、ご家族様やご本人様の希望や意向があれば、元々のかかりつけ医への継続受診を支援している。	かかりつけ医の選択は自由である。現在は利用者全員が、協力医療機関の医師の往診を受けている。必要があれば皮膚科医の往診も受けられる。看護師が毎週訪問して健康管理をしている。歯科医師は毎週来訪し、契約した方の治療や義歯の調整などを行っている。眼科などの専門医の受診は、職員や家族が同行で受診している。診察結果は、「受診健康管理記録」に記載して内容を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設で2回/日バイタルチェックを行い記録すると共に、1回/週訪問看護師による状態確認や必要な処置・助言を受けている。訪問看護師と提携医とは受診・健康管理記録ファイルにて連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時介護サマリーにて必要な情報提供を行い、入院中もスムーズな退院に向けご家族・相談室と連携している。提携医療機関と入院事例ない時でも現状確認や事例相談等の連携をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に終末期の意向を聞き取っている。事あるごとにご家族様に意向を確認している。	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」で事業所の方針を家族などに説明し共有している。重度化した時は、協力医療機関の医師などと連携して、家族などの希望を再確認しながら、利用者の状況に応じた対応をしている。管理者が在籍している4年間に2名の看取りを経験している。看取り後は、会議の中で振り返りを行っている。2020年3月に研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応ファイルを各フロア毎に設置している。リスクマネジメント研修にて救急法等を行っている。提携医よりAEDの使用方法について研修を受けた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練・消火・通報訓練を実施している。職員全体で避難場所を周知し、避難経路や災害時対応の情報を共有している。	2020年6月に火災を想定した自主避難訓練を実施し、2021年3月に2度目の防災訓練を予定している。オーナーや隣家のレストランなどに災害時の応援を依頼する意向である。災害時の備蓄品は食料（水、五目御飯、粥、缶詰など）を「非常食管理台帳」を作成し管理している。	地域との協力体制が築けるよう事業所のオーナーなど、近隣の方々への協力依頼を継続する事を期待します。また、被災時に必要な備蓄品の把握をして、カセットコンロや暖を取れる物などを準備する事を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、否定のない言葉かけに努めている。傾聴する事の大切さを常日頃から意識付けしている。	入社時の研修や接遇マニュアルを使用し、否定しない言葉がや人格の尊重などについて、年1回研修を行い学んでいる。利用者の呼称は“さん付け”を基本としているが家族に確認して、慣れ親しんだ“ちゃん付け”で呼ぶ方もいる。職員が排泄介助をする際は、カーテンを引いて利用者の羞恥心やプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中での会話にて本人の思いや希望を聞き取り、自己決定できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のしたい様に過ごして頂き、その日その時の気分配慮して支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前からのなじみの美容院へ行かれたり、昔から行かれていた美容院の美容師さんに来ていただいたりしていた。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやお盆・テーブル拭きに自発的に参加されている方がいる。簡単な下ごしらえや盛り付けを手伝って下さる方もいる。	土曜日から火曜日は、配食業者の調理済み食品を仕入れ、その他の曜日は、法人の献立を基に利用者の好みも反映して、肉屋や魚屋、ネットスーパーなどを利用して職員が食事を作っている。年越し蕎麦やおせち、恵方巻など季節行事に合わせた食事や形態を変えた「ミキサー食」を提供している。利用者は、盛り付けや下ごしらえ、食器やお盆拭きなどを行っている。ファーストフード店でハンバーガーをテイクアウトしたり、誕生日には、隣家のレストランにケーキを注文して祝う等、食事を楽しむ機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量を毎日記録し、ご利用者様毎にあった形態で食事提供している。食事に手をつけない方へは、時間をおいたり担当職員を替えて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ・促しの実施。その人の口腔状態・ADLに合わせた支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を大事にしている。時間毎の誘導や、様子から推察しての声かけを行い、トイレで排泄できるよう努めている。	利用者の排泄状況を職員は「介護記録」で把握し、トイレでの排泄を促している。排泄パターンを把握して、それに基づいて支援を行った事で、パットを使用していた方がリハビリパンツのみになった事例がある。夜間は、不安解消のためリハビリパンツからおむつの使用に変える方など、一人ひとりの力に応じた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内環境が良くなる食事提供実施や、提携医と連携しての内服薬コントロールを実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	3人/1日を目安に入浴を心掛けているが、その日その時の気分を配慮・考慮し入浴して頂いている。	利用者は、概ね週2回入浴している。入浴を好まない方には、タイミングを見はからい、利用者手伝いを依頼したついでに声をかけるなどの工夫をして入浴を促している。現在、毎日の入浴を希望する方や同性介助を希望する方はいない。鼻歌を歌ったり、入浴剤などを使用して、入浴を楽しむ方がいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて空調を整えたり、その時の体調を考慮し午睡していただく等、その時の状況に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬一覧ファイルに個々の薬の薬状を入れている。処方変更時は、申し送りや管理日誌・連絡ノートに記載し職員間で情報共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のADLの状態や今までの生活歴を考慮し、その方に見合った役割を担って頂いている。 (洗濯物干し・たたみや食器拭きや庭仕事等)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎回希望の都度の外出は出来ないが、出来る限り外出できるようにしている。短時間ではあるが希望者に散歩対応行うこともある。	日常的に散歩や買物を行なっている。外出時に車椅子を使用する方が増え、散歩などの外出を希望しない利用者が多いことから、遠方への外出機会が減っている。外出の代わりに室内のプログラムの充実を図っている。現在は、新型コロナウイルス感染予防のため、テラスやベランダで外気浴を行い、気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物を一緒に買いに行ったり、散歩も兼ねスーパーに行き買いたい物をご自身で選んで買っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時には、職員見守りの元で使用して頂いている。手紙やハガキのやり取りは職員が間に入り支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアに季節の飾り付けをしている。空調管理は随時行っている。音・光・色等にはその都度対応している。	清掃専従の職員を配し、日常清掃を行なっているほか、年2回専門業者に依頼して床や窓などのハウスクリーニングをして清潔を保っている。空気清浄機や加湿器を設置したり、カーテンで日差しを遮るなどの配慮をしている。ハロウィンやクリスマスの飾りつけをしたり、正月には鏡餅や門松を飾るなどして、季節を感じられるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人用ソファを設置し一人になれる空間作りをしている。二人用ソファを設置し、気の合う方同士で会話できる空間作りをしている。又、将棋スペースを作りご利用者様同士で対局できる空間作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に相談し、使い慣れた物を使って頂いている。設置時は安全を考慮している。	事業所が備えたクローゼット、空調、カーテン、照明、ピクチャーレールがある。利用者は、家族の写真、仏壇、鏡台、タンス、観葉植物、フラワーアレンジメントの花束など、思いおもいの物を持ち込んでいる。居室のエアコンの音が気になる方には、利用者が居室に戻る前にスイッチを一時切るなどの対応をして居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ものの置き場所を決め、元に戻しやすいようにしている。各居室の出入口には表札を貼り、ご利用者様に分かる様になっている。		

事業所名	ニチイケアセンター藤沢
ユニット名	湘南の里

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を各フロアの見える場所に一文字ずつ大きく掲示している。各職員が周知しており、笑顔のたえない様に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は新型コロナウイルス感染拡大防止の為に、休止中であるが、町内の老人会・教会に毎週行かれています。又、近隣の保育園と交流をもたせてもらい、園児と先生がホームに遊びに来て頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	問合せやご見学には随時対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議にて現在のホームの状況や意見交換をしてサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	村岡地区福祉関係者ネットワーク部会に加入している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。 毎月、管理者・身体拘束廃止委員会を中心に身体拘束廃止にむけた研修を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃からご利用者様へ対する支援や様子・状態の報告を受けている。 年に2回、高齢者虐待防止法について研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議にて権利擁護の研修を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様・ご利用者様に十分な説明をし、分かりにくい所は補足している。 質問があれば、その都度に説明をし理解・納得を頂いてから契約を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来訪時や電話連絡時に意見交換をしている。ご利用者様の意向は常日頃の業務の中から要望や意見を聞いている。玄関に意見箱も設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議やユニット会議にて職員からの意見や提案を聞き運営の向上に努めている。個別でも相談や意見がある時には、その都度に聞き反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度にてスキルがアップしている職員には給与アップを行っている。希望に見合った勤務体制に努めている。必要時には個別にて面談を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のホーム会議にて職員研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社の毎月の会議にて他サービスの職員と意見交換をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前相談時にご家族様・ご本人様等の声に耳を傾けている。安心して生活出来る様に随時声をかけ、コミュニケーションを図り信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の来訪時や電話連絡時に困っている事や意向や要望・相談等を受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様・ご利用者様から話を聞き必要なサービスなのかを確認して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居前のももとの生活を大事にし、近づける様に共有部分を摂り、出来ない部分を支援してお互いの信頼関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の来訪時には生活の様子をお伝えし、相談をうけて職員との関係を築いている。電話時にも意見交換をし関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームでの夏祭りやクリスマス会といった行事にはご家族様を招待している（ｺｰﾎﾞ後招待休止中）。 面会や電話・お手紙にて関係が途絶えない様に努めている（ｺｰﾎﾞ後面会休止中）。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の相性を日頃の様子から観察し把握に努め、ご利用者様同士が気兼ねなく会話が出来る様な席に心掛けている。お互いが支え合える様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	来訪や電話にて相談や聞きたい事があれば、その都度必要な支援をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族様には来訪時や電話連絡時に希望や意向を聞き、ご利用者様には日頃の会話の中や様子から汲み取り、ユニット会議にて反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご利用者様の会話から今までの生活について聞き出している。ご利用者様の望まれている暮らしが出来る様に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に生活状況や体調等を記録し把握に努めている。 必要な事は連絡ノートに記入し職員同士で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様には来訪時や電話連絡時等に事前に意向を聞き入れ、職員には事前カンファレンスシートを提出してもらい、サービス担当者会議にて意見交換をし、介護計画書に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士の申し送りや会議記録を読み、現状の課題や気になる点や様子について相談・提案をし管理日誌や連絡ノートに記入し情報共有に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度生まれるニーズに対応できる様に、最良なサービスができる様に柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は新型コロナウイルス感染拡大防止の為に、休止中であるが、老人会や教会の行事に希望があれば出来る限り参加して頂いている。出来る限り、ボランティアグループの定期的な来所依頼をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は該当事例はないが、ご家族様やご本人様の希望や意向があれば、元々のかかりつけ医への継続受診を支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設で2回/日バイタルチェックを行い記録すると共に、1回/週訪問看護師による状態確認や必要な処置・助言を受けている。訪問看護師と提携医とは受診・健康管理記録ファイルにて連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時介護サマリーにて必要な情報提供を行い、入院中もスムーズな退院に向けご家族・相談室と連携している。提携医療機関と入院事例ない時でも現状確認や事例相談等の連携をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に終末期の意向を聞き取っている。事あるごとにご家族様に意向を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応ファイルを各フロア毎に設置している。リスクマネジメント研修にて救急法等を行っている。提携医よりAEDの使用方法について研修を受けた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練・消火・通報訓練を実施している。職員全体で避難場所を周知し、避難経路や災害時対応の情報を共有している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、否定のない言葉かけに努めている。傾聴する事の大切さを常日頃から意識付けしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中での会話にて本人の思いや希望を聞き取り、自己決定できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のしたい様に過ごして頂き、その日その時の気分に配慮して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前からのなじみの美容院へ行かれたり、昔から行かれていた美容院の美容師さんに来ていただいたりしていた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやお盆・テーブル拭きに自発的に参加されている方がいる。簡単な下ごしらえや盛り付けを手伝って下さる方もいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量を毎日記録し、ご利用者様毎にあった形態で食事提供している。食事に手をつけない方へは、時間をおいたり担当職員を替えて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ・促しの実施。その人の口腔状態・ADLに合わせた支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を大事にしている。時間毎の誘導や、様子から推察しての声かけを行い、トイレで排泄できるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内環境が良くなる食事提供実施や、提携医と連携しての内服薬コントロールを実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	3人/1日を目安に入浴を心掛けているが、その日その時の気分を配慮・考慮し入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて空調を整えたり、その時の体調を考慮し午睡していただく等、その時の状況に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬一覧ファイルに個々の薬の薬状を入れている。処方変更時は、申し送りや管理日誌・連絡ノートに記載し職員間で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のADLの状態や今までの生活歴を考慮し、その方に見合った役割を担って頂いている。 (洗濯物干し・たたみや食器拭きや庭仕事等)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎回希望の都度の外出は出来ないが、出来る限り外出できるようにしている。短時間ではあるが希望者に散歩対応行うこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物を一緒に買いに行ったり、散歩も兼ねスーパーに行き買いたい物をご自身で選んで買っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時には、職員見守りの元で使用して頂いている。手紙やハガキのやり取りは職員が間に入り支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアに季節の飾り付けをしている。空調管理は随時行っている。音・光・色等にはその都度対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人用ソファを設置し一人になれる空間作りをしている。二人用ソファを設置し、気の合う方同士で会話できる空間作りをしている。又、将棋スペースを作りご利用者様同士で対局できる空間作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に相談し、使い慣れた物を使って頂いている。設置時は安全を考慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ものの置き場所を決め、元に戻しやすいようにしている。各居室の出入口には表札を貼り、ご利用者様に分かる様にしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニチイケアセンター藤沢

作成日 2021年 5月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の地域との協力体制が薄い	災害時に備え近隣住民への協力体制を整えていく	年2回の消防訓練にオーナー様や近隣住民の方々への声かけ・参加を依頼していく	1 2ヶ月
2	35	災害時の備蓄品の確認が不十分・備品が整っていない	非常食の調理方法の把握と停電時の必要な備品の整備	非常食の使い方を全スタッフが周知できるように確認していく。カセットコンロ等の備品の準備をしていく	1 2ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。